

Annual Report 2013

医療法人社団 安藤眼科医院

高度な医療 そして やさしい心配り
患者様の明るい世界、輝く笑顔が見たいから成長し続けます



◇安藤眼科医院

〒258-0003 神奈川県足柄上郡松田町松田惣領 995-1
Tel 0465-83-4545

◇安藤眼科医院小田原クリニック

〒250-0862 神奈川県小田原市成田 168
Tel 0465-38-0344

◇安藤眼科医院南足柄クリニック

〒250-0105 神奈川県南足柄市関本 569 ヴェルミ 2 1F
Tel 0465-73-1515

<http://www.andoganka.com>

info@andoganka.com



目 次

平成 26 年の始まりに寄せて	理事長・院長 安藤 浩	1
3分スピーチ	名 誉 院 長 安藤 展代	4
人間とロボット	副 院 長 江口 亮	6
2013 年を振り返って	石川 暢子	7
未熟者ですが・・・よろしくお願ひいたします	戸野塚 敏恵	8
「ボロボロの枝でも・・・」	検 査 部 長 井上 拓己	9
2014 年を迎えて	事 務 部 長 加藤 晃仁	9
2013 年を振り返って	看 護 師 長 伊東 淳子	10
僕の野望	手 術 室 長 木村 智嘉	10
2013 年の思い出		11
学会・勉強会		11
学会発表		12
学会原著投稿		13
医師会・眼科医会		13
改裝・修理		14
2013 年に行われた手術		14
新設器械		15
ひとみすつきり号（無料送迎車）の動き		15
2013 年皆勤賞 無遅刻・無欠勤・無早退の方々です。拍手！		15
入職者 がんばって下さい。		15
退職者 ごくろう様でした。		16
結婚おめでとう。		16
お誕生おめでとう。		16
スタッフ		16

平成 26 年の始まりに寄せて

安藤眼科医院 理事長・院長 安藤 浩

安藤眼科医院は平成 25 年にも、外来患者数増加、手術総件数の増加と、着々と発展を続けることができました。これはひとえに、安藤眼科をご指導くださる多くの医療機関の皆様、他科の医療機関の皆様、近隣眼科の先生方、近隣地域の人々、安藤眼科医院と関係を持っている企業の皆様、安藤眼科医院内で働いてくれているスタッフなど、皆様のおかげです。毎年のことながら、一年を振り返ると、皆様への感謝の念と、次の年への抱負がふつふつと湧いてきます。皆様ありがとうございました。また、平成 26 年もよろしくお願い申し上げます。

平成 25 年を振り返ってみたいと思います。

安藤眼科医院倫理委員会の設立

平成 25 年の安藤眼科医院の最も大きな成長は、安藤眼科医院倫理委員会を設立したことでした。

当院では、今までにも臨床研究を数多く行っていましたが、研究を開始するときの手順は特に定まっておらず、研究を行う医師がそれぞれにその研究意義と価値を推し量り、実施していました。ところが、平成 24 年 JSCRS 学術総会の一般口演に演題を寄せた際に、倫理委員会の承諾の有無が問題になり、遅ればせながら、私たちも、倫理委員会の必要性に気づくことになったのでした。

倫理委員会の意義、必要組織を調べることから始まり、幾人もの学識経験者や社会経験者に打診をし、ご承諾をいただいた方々に倫理委員会の委員になっていただき、9 月 24 日に第 1 回安藤眼科医院倫理委員会を開催することができました。第 1 回倫理委員会では、これから実施予定の臨床研究 2 題を審議しました。臨床研究が社会的、倫理的に問題がないか、研究は医学や社会に貢献できるのか、臨床研究の対象となる症例の個人に何らかの不利益が起きる可能性はないのか、臨床研究参加者となる一般の人々から見て説明不足の箇所がないか、科学者である医師の独りよがりがないか、広い視点からの討議がなされ、多分野の委員からあらゆる方面的意見が出されました。そして、審議には私の予想を上回る時間が費やされ、私が予測もしなかったほどの有意義なご意見を多数伺うことができました。自分の思慮の浅さを思い反省することも多く、また、私の今後の医療行為全体に影響するほどに、多層化した意見構成を得ることができました。委員の方々には大変感謝し、これからも定期的に行われる倫理委員会に期待するとともに、安藤眼科医院の明らかなレベルアップを誇らしく感じました。

防災訓練

防災訓練は、前年からの継続をすることで、レベルアップを図りました。とても悲しい出来事であった 3 年前の東日本大震災、そして平成 16 年の新潟中越地震を巨大災害の教訓とし、さらに、平成 25 年に起きた北九州での病院火災を火災としての教訓に、安藤眼科医院では震災、火災を対象とした災害時想定と訓練を行いました。平成 24 年の時に初

めて臨場感あふれる想定で行った時には、新しい発見の連続でした。今回平成 25 年は、平成 24 年のリアル訓練を踏まえ、さらに災害対策として一般的に次々と発見、発案される災害時の知識と対策を盛り込み、経験をレベルアップしました。第 1 撃での安藤眼科医院内での災害被害を最小限にするだけでなく、さらに安定した生活や社会状態を最速で手に入れられるよう考慮しました。またハード面の災害対策としては、建物内の主だった診療機器等を可能な限り耐震固定し、機械と周囲の人々の人的被害を出にくくするよう対策しました。平成 26 年度への展望としては、災害後にストップした社会機能を再開させる一助になれる方法がないかを探りたいと、思っています。

人事去就

平成 25 年の安藤眼科医院では 9 名の新しい仲間を得ました。医療行為は、チームで行います。特に、手術を多数手がけている当院は、最先端の医療を地域の人々に届けるために、事務、検査、看護、医師と多くの職種のチームワークが必要です。今までに培ってきた院内の強力な協調体制をさらに強固にしながら、今後の診療体制を作ろうと考えています。新しく当院へ入った人々は、もともとの当院の組織に新しい文化を作ってくれるチャンスでもあります。それぞれの今までの社会経験を生かして、安藤眼科医院をよりよくしていくよう、学習と助言をしてくれるよう、院長としてお願ひをしています。

安藤眼科医院創業からずっと安藤眼科医院にいてくれた、看護師の北村幸子さんをはじめ、幾人かの人々が、当院を去っていきました。それぞれに、結婚や出産、また、転職と、新しい人生を歩んでいけるよう、そして、安藤眼科医院での経験を今後の糧にしてくれるよう、願っています。

手術と診療機器

平成 25 年の安藤眼科医院の白内障手術件数は、1,795 件でした。平成 24 年と比較して 4% の増加をしています。緑内障手術は、127 件と、平成 24 年の 101 件と比較して 26% の増加をしました。変動幅の大きい近視矯正手術を除くと、安藤眼科医院の内眼手術件数は、着実に増加しています。

平成 24 年秋から Alcon 社製 EXPRESS を使用してのインプラント纖維柱帯切除術を当院は導入しています。平成 25 年も後半になると、まとまった症例数になったので、いくつかの統計解析をしてみました。手術時間は、纖維柱帯切除術単独手術で EXPRESS 非使用群が 46 分、EXPRESS 使用群が 40 分と $P<0.01$ で有意に時間短縮しました。手術時間の短縮は患者様の体力負担の軽減に直結します。非使用群の人々は、疲れ切って無言でやっと手術ベッドから立ち上り、使用群の人々は、「あー、やっと終わった」と元気に立ち上がる、というのが、術者である私から見た印象です。本当は、「あれ、もう終わったの?」と言っていただけの短時間の手術が理想ですが、今のところ、緑内障手術はそこまでは発達できていないうえです。また、術後の眼圧変動は、あきらかに EXPRESS 使用群が安定しており、これは、多くの学術報告と合致しています。

ハイデルベルク社製スペクトラリス HRA-OCT を新規導入しました。すでに、バランスの取れた画像や、複数の疾患に対する診断補助能力と、卓越した性能を持つ Zeiss 社製シラス OCT を当院は持っているので、今回の OCT は、いわば贅沢品です。しかし、Heidelberg

社製の黄斑病変の描出力がどうしても以前から気になって仕方ならず、今回、思い切って導入しました。同機の加算平均を用いた黄斑病変の描出は、本当に素晴らしい、網膜の細胞たちが手に取るように見えた気になります。反面、医師の持つべき診断知識も爆発的に増えるので、私は機械に追いつくために、黄斑を再・猛勉強中です。幸い、安藤眼科医院の医師は、優秀な人々がそろっていてくれたために、彼らの力を借りながら、私の診断能力も着々と上昇いたしました。2種類のOCTをそれぞれの特性によって使い分けながら、黄斑、視神経乳頭を解析し、いろいろな疾患の診断と治療に今後も使用する予定です。

硝子体手術の分野は、現在眼科学の中でも最も進歩の速い分野です。当院でも、卓越した術者による硝子体手術を定期的に実施し、この日進月歩の分野を地域の医療に提供しています。白内障と緑内障手術が到達する眼球深度は3mmまでですが、網膜硝子体手術は眼球の最深部まで侵入します。「他の手術がサーフィンや水泳などに對して、硝子体手術はダイビングなのです」と、当院に来ていただいている硝子体手術者の言葉が、私にはとても印象的でした。実際に深度25mmの球体（眼球）の世界はとても神秘的で、中性浮力を取つてたたずむ海中の景色に似ています。また、網膜硝子体手術の経験をすることで、白内障や緑内障などほかの内眼手術時にも、今までよりリアルに、緩やかな弾力を持った眼球全体像を頭の中に再現するようになりました。

結び

安藤眼科医院内で働いてくれているスタッフ、安藤眼科医院と関係を持っている企業の皆様、近隣地域の人々や、近隣眼科、他科の医療機関の皆様、安藤眼科をご指導くださる多くの医療機関の皆様のおかげで、安藤眼科医院は着々と発展を遂げています。これからも、高度な医療を地域に提供し、常に最先端を走り続けられるよう努力してまいりますので、みなさま、よろしくお願ひいたします。

平成26年も皆様にとって有意義で楽しい年でありますように。

3分スピーチ

名誉院長 安藤 展代

当院はお互い 7 Km ずつ離れた 3 つの診療所で運営されており、事務員、検査員、看護師、医師それぞれがあらかじめ決められたシフトに従って動いている。それで 1 週 1 回必ず一堂に会すという意味で毎週金曜日の午後 1 時半から全員集合のミーティングを行っている。直近の予定の通達や確認、いくつかの申し合わせ事項の伝達、医師からの小講義、接遇についての注意や講義、たまには新薬や新しく導入される機械の紹介や説明がメーカーさんから行われることもある。その後事務、検査、看護、医師とグループに分かれて勉強会となる。今回はそれに加えて数年前に行っていたことがある 3 分スピーチを復活させようということになった。江口副院長の提案でお題は“眼科ネタ”と“自由ネタ”それぞれ 1 つずつ、一人 2 回当たることになるので、50 名余りの職員が 1 年間で全部回るには 1 回に 2 ~ 4 名くらいが発表することになる。一昨年末にくじ引きで順番が決めてあり、年始から早速始まった。

“眼科ネタ”というのは眼科関連なら何でもよい、そこでいろいろな話題が披露された。息子にコンタクトレンズを指導して考えたこと（香川）、コンタクトレンズの歴史（坪井）、近視で良かった（鈴木）、視力回復メガネを試した（町田）、眼精疲労関連（近藤、野崎、原祥子）、紫外線と目の関連（小寺、高橋）、色覚異常の遺伝（久野）、胎児の目の成長（妊娠中の小泉）、子どもの視力（子育て松山）、義眼（矢口）、眼輪筋トレーニング（面高）、スポーツビジョン（野村）、目のほくろ（野地）、ブルーベリー（山川）、目の動きと心理（齋藤）など生活に根差した面白い発表だった。美容関連ではまつ毛が伸びる薬（飯山）、エクステ（中村）、アイメイク（鹿島）など女性の関心事に迫り、散瞳剤の違いについて（荻野）、虹彩、睫毛について（山村、関麻子、須貝）、写真で目が赤く写ることについて（小林）など日頃の関心事を考え直すものが多く、補色残像（杉山）、錯視（倉林）は ORT らしい話題だった。動物の目についての発表も多く、色覚（十文字）、目の大きさと移動速度（岡田）、犬の目（原弘恵）、動物が見ている世界（山口）、魚眼（木村舞）、メダカ（関恵理子）、カマキリ（新村）など新しい知識をいただいた。目によって変化した人生について（加藤晃仁）、江戸時代の盲人（井上）、友達に眼科のイメージを聞いた（藤田）、手術当日の病室（金田）、手術室での笑い（伊東）、15 年前の安藤眼科（加藤明子）、目にまつわる妖怪（波多野）などもとても面白かった。医師はそれぞれ点眼液、瞬目、緑内障、白内障などにつき無難に 3 分講義をするに留まったのは、“眼科”にとらわれている限界か？などと感じてしまった。

“自由ネタ”ではさらにみんなの自由な発想が披露された。自分の名前の由来（関麻子）、以前の仕事や趣味について（坪井）、これから夢や野望を語る（波多野）、誕生日占い（齋藤）、幸せを感じる時間（新村）などの自己紹介は幸せそう。子供のしつけや自慢（井上、宮下）は楽しそう。ペットの話題（中村、木村舞、甲斐、加藤明子、須貝）も楽しそう。故郷北海道の方言について（面高）や、今住んでいる場所の紹介（野村、岡田）には愛があふれていた。趣味関連ではマイルを貯める（江口）、ラジオ体操（戸野塚）、劇団四季（杉山）、サルサ（鈴木）、キャニオニング（山川）、ロックフェス（鹿島）、ボルダリング（町田）など、普段知らなかったその人の横顔が見えてきて楽しい。健康関連ではアロマ（高橋）、肩凝

り（久野）、ダイエット（松山）、免疫力（金田）、爪（野地）、熱中症（小寺）健美香炉（荻野）、シャンプー（原祥子）など、それぞれのこだわりが垣間見える。植物にも血液型があるという（山村）、小惑星 2012 DA14 がニアミスで良かったという（安藤浩）、友人を悼む（加藤晃仁）、ミドリムシの可能性について語る（小林）、人気のコアラのマーチ（伊東）、近所付き合い（藤田）、奄美大島と焼酎の話（十文字）、富士山へ行きましょう（関恵理子）、今夜の月を見ましょう（藤本）、鎌倉幕府は 1192 ?（倉林）、だれもがうなる素晴らしい自作おせち料理の披露（飯山）、ナシゴレンを毎日食べていたバリ旅行（野崎）、セスキ炭酸ソーダによるお掃除（石川）など、とても楽しい話題が尽きなかった。

発表はメモを見ながら話をする人もいれば、色彩豊かなデジタルプレゼンテーションをする人もいる。とにかく短い時間内に起承転結し話をまとめなければならないのでそれなり準備は大変なのだが皆よくやったと思う。60 名近い職員がいるとそれを理解するのはとても大変で行き届かないが、こうした発表を見せてもらうと今まで知らなかつたその人の別の面が見えたりして理解が深まるのでうれしい。

さて 11 月いっぱい一連の発表が終わり、12 月には全員で人気投票をし、忘年会当日に発表があった。

“眼科ネタ”の 1 位は藤本景子さんの “Café’ Ando”、これは小田原クリニックの一角に Café’ を作ったらどうか、内装はこう、家具はこう、そしてメニューまで考えられてあり、とても楽しいものだった。2 位は木村智嘉さんの “手術にかかるコストについて”、白内障手術でいくら眼科に収入が入ってくるのか、かかる費用はいくらなのか、消耗品、薬剤など引いた残りが給料になるのだから…というわけで、彼曰く “みんなのコスト意識に一石を投じる超大作”。3 位は甲斐智美さんの “他の眼科へ偵察” ほかの眼科はどうなっているんだろうという興味から、他の眼科を受診する家族に同行してみた話。

“自由ネタ” の 1 位は木村智嘉さんの “長男を使用した実験”、女の子のルックスが 3 歳の男の子の好みにどんな影響を与えるのかという面白いお話だった。2 位は香川奈美子さんで、“たかがストロー、されどストロー”。ストローに興味を持ていろいろ調べてみた。飲む液体によってストローの口径を工夫したり、長さはもちろんさまざまだが、伸縮するもの（3 段もある）、2 穴ストロー、スリットが入っていて真空状態を回避できるものもある。一番気に入っているのはマクドナルドのハッピーセットという子ども用のセットについていたストローで、吸い上げると或るキャラクターが出てきて、その声も聞けるというもので、そのキャラクターが好きな香川さんは電池が無くなるまで何度も聞いたそうです。3 位は安藤展代 “沈む水の都～沈むならそれも楽しいかも” ベネチアで水浸しのサンマルコ広場を歩き、だんだんと沈むことを考えた。でもそうしたらゴンドラでサンマルコ寺院の中に入れる、もっと沈めばダイビングでサンマルコ寺院の見物をするんだ、それもいいな～と思って作ったプレゼンだった。ね、ね、私に投票してね、とみんなに頼んだので、やつと 3 位に入れました。ありがとうございました。

人間とロボット

副院長 江口 亮

今さらではあるが、私は根っからの理系人間である。3歳の時の遊び道具は電卓だったし、学生時代は1日中くそ難しい数学の問題に埋もれているのが快感ですらあった。（今は到底無理である。）大人になった今でも数字を眺めているとなんとなく幸せを感じるちょっと変わった性癖を持っている。

日本では現在医学部は理系に分類されており、入学試験でも数学・理科を重視する大学が多い。今も大して変わらないだろうが、私の学んだ時代、医学部の教育は人体をパツごとの集合体として扱い、人体で起こるさまざまな反応を化学式で表すというのが基本姿勢であったように思う。化学式で表せる反応だからこそ、薬剤は皆に同じ反応を示し、（多少効果は異なるにせよ）皆に等しく効果が出るのだし、医学が科学の一分野として扱われる所以である。この立場からは、文学や音楽の主要テーマである恋愛や悲哀も種々のホルモン（これも化学物質である）などによる単なる神経の反応に過ぎない。味もそつけもないが、医学は人体を単なる物質として扱うことで進歩してきたし、これからも進歩していくだろう。

眼科は眼球という小さい組織を扱う科である。その眼科の領域でも1つ1つの組織ではなく、さらに細分化したパツごとに治療を考えるといった流れができている。例えば、昔であれば角膜を移植で全部とりかえていたものを、悪いところだけ - 表層が悪ければ表層だけ、内皮が悪ければ内皮だけ - とりかえられるようになってきている。まるでロボットで調子の悪くなった部品だけをとりかえるように。

パツのとりかえの行きつく究極は、ノーベル賞以来、俄然注目を浴びているiPS細胞を使用した移植だろう。今年中に加齢黄斑変性の患者に、初めての人体への臨床応用として治験が始まるといわれている。これも網膜全体ではなく、患者の機能を失っている網膜色素上皮の部位だけを「とりかえる」治療である。治験を行う理化学研究所も発表している通り、今年から始まる治験の主目的は移植した細胞が癌化しないかといった安全性の確認であり、まだまだ治療効果を求められる段階ではない。実際に治療に用いられるようになるまでには相当の年数がかかるだろう。ただ、このiPS細胞の優れているのは、理論上全ての臓器・器官に分化できる可能性がある細胞であるため、人体のあらゆる器官を「とりかえる」ことができるようになるかもしれないという点である。iPS細胞を分化させた動く心筋の映像を見たことがある方もいらっしゃるだろう。

数十年先か数百年先かはわからないが、「目が悪くなったのですね、では新しい眼球ととりかえましょう」だとか、「脳の働きが悪くなってきてているようですので、若い頃の脳ととりかえましょう」といったことが可能になるかもしれない。人間がロボットに近づき、究極的には永遠の生命を手に入れることができるといったSF的未来が本当にあり得るのか、興味は尽きない。

2013年を振り返って

石川 暉子

2013年、それは学会発表そして急患、重症患者が数多く訪れた1年でした。

2013年の前半は6月末に予定された学会発表が重要度No.1でした。LASIKについてまとめて発表しようということになったものの演題と内容が決まったのは締切近くで、抄録（発表内容をまとめたもの）はそれから大急ぎで作りました。抄録はぎりぎり間に合いましたがそれから大量のデータと格闘する日々が続きました。まずどのデータをどのように統計処理するのか考え、統計処理した結果をみてから別のやり方を検討する、その繰り返しでしたが、統計学は15年位前に学会発表した時に勉強した記憶しかなく、統計ソフトもエクセルだけでなくSPSSという専門ソフトを使用することになったので統計学の本をまず熟読しなければなりませんでした。データ処理がだいたい終わるのに3か月近くかかったと思います。発表スライド作成ではグラフ作成にとても時間がかかりました。内容が盛りだくさんだったので口演が制限時間オーバーになり、時間内に収める作業にとりかかったのは発表1週間前でした。発表前夜も夜遅くまでスライドを作り直しました。学会最終日の発表当日、一部（多く？）の参加者は朝から東京ディズニーリゾート（学会会場はシェラントン・ベイでした！）に出かけようと、楽しそうに集まっていました。他の参加者は学会会場に入っていきましたが、私は会場ホテルの人気が少なくなったロビーで、発表への質問対策のためにデータを再計算しながら過ごしていました。作業中も、最初から最後までずっとぎりぎりの動きばかりだったこの発表が、上手いくのかどうかとても心配でした。発表予定のセッションが始まり、セッション2演題目で座長の先生が怒り始め、会場は不穏な雰囲気に包まれました。しかしその後進行が大幅に遅れていることに座長が気がつき、私の発表では討論する時間がなくなるという幸運に恵まれ、厳しい質問を受けずに無事発表は終わりました。大量のデータ入力に携わってくださった職員の皆さんのがんばりに応えられたかどうか自信がありませんが、再度この場でお礼を申し上げたいと思います。

2013年後半は急患、重症患者で外来は大忙しでした。角膜絡みの重症症例が多い中、真菌性角膜潰瘍と、遅発性眼内炎の症例が強く印象に残っています。それぞれ経過が悪ければ失明する可能性があるのでこちらも患者さんも真剣で、治療開始からしばらくは週2～3回の通院と大量の投薬が続き、来院する時には小さなかご一杯に薬を全部入れて持っていました。その後1か月が過ぎる頃からそれぞれ好転し始め、3か月の経過でほぼ軽快となりました。その他、PACS・PACG→GSLトリプル、内頸動脈閉塞→眼内循環不全→血管新生縁内障で他科との連携が重要だった症例、原因が不明だけれど重症な症例など、臨床処理能力を問われる症例が多く来院される一方で、予約外患者様も毎日たくさん来られたために外来業務中のプレッシャーのかかり方は昨年までとは比べ物にならないほど大きく、このままでは押しつぶされてしまいそうなので、立ち向かう体力をつけるため秋からトレーニングジムに通い始めました。また、幸運を呼ぶように元日には初詣に行きました。

2014年も職員の皆さんと一緒に頑張りたいと思っています。宜しくお願ひいたします。

未熟者ですが・・・よろしくお願ひいたします

戸野塚 敏恵

安藤眼科医院に非常勤として勤務していたころ、とある日のミーティング後、院長先生から「話がある」とのこと。あまりに突然で、思い当たる節がなく、てっきり解雇のお話かと思い込み、相当慌てました（実はメールで事前にご連絡いただいたのですが、パソコンを全く開かない生活を送っていた私は、院長先生からのメールに気づいていなかったのです）。お話というのは、高木先生産休後の常勤医師としてのお仕事のお話だったのですが、今でもその時のことを思い出すたびにドキドキします。

私は、妊娠8カ月で眼科専門医試験を受験。試験は無事合格し、3人の子供に恵まれるもの、家庭と仕事の両立に断念し、専門医は休止届提出。勤務は週1回程度の非常勤のみ続けていました。専門医休止期間は10年に及び、どっぷり専業主婦と化していました。そんな私でしたが、2013年2月より、高木先生のお仕事を引き継ぐ形で安藤眼科医院で勤務させていただいております。未熟な私に、先生方はじめ、スタッフの方々も温かくいろいろなことを教えてください、不安いっぱいな私を助けてくださいます。

今更ながら気づいた事なのですが、安藤眼科医院は様々な検査機械があり、穏やかなスタッフにも恵まれ、さらに、院長先生はじめ先生方の旺盛な好奇心や豊かな知識量・豊かな経験値など、未熟な私には吸収・勉強するが多くあり、とても楽しく・自己啓発させていただきながらお仕事をさせていただいております。今年は末っ子が小学生になり、手がかからなくなっていました。少しずつでも、より良い診療のため、精進していきたいと思います。

実は、常勤勤務になると時期を同じくして、趣味のバドミントン（東医体の金メダル持っています。ちょっと自慢です）では家庭婦人のチームに入りました。家庭・仕事・バドミントン3足のわらじをしっかりと履き、充実した生活を送っていきたいと思います。

そんな私ですが、今後ともよろしくお願い申し上げます。

「ボロボロの枝でも・・・」

検査部長 井上 拓己

朝、川沿いを散歩すると、川上から流れてきた様々な枝をみつけることができる。短いもの、長いもの、曲がったもの、太いもの・・・たいがいそれらの外観はボロボロで放つておけば朽ちていく。その中の一つを拾い、余計な部分の小枝をナイフで切り落とし、皮を剥いで、ヤスリを使って我を忘れんばかりにひたすら磨く。そうすると、その外観からは想像も出来ないほど綺麗な木目が浮き出てくる。適当な太さまで削り磨いた後、ボールペンの持ち手として加工する。色、模様、質感、どれ一つとして同じ物はなく優越をつけることができない。これらのボールペンは、大量生産のそれらと違い、使うほどに手に馴染み愛着が沸く。われら検査員も手作りのボールペンのように、個性と才能を充分に発揮し、それぞれが誰からも好かれる掛け替えのない検査員となれるように、皆様からの暖かいご支援のもと、日々努力研磨して行きたいと思います。

2014年を迎えて

事務部長 加藤 晃仁

扉を開けると、寒さと静けさでピンと張りつめた空気と共に、新しいワックスの匂いが鼻をつく。月に2,000人以上の患者様が来院する松田診療所も、この日ばかりは静まりかえっている。

1月3日、毎年自分は実家の神社に初詣に行き、その足で出勤する。スタッフの勤務管理、出納処理、レセプト確認を行い、ようやく2013年12月を締めくくる。静まり返った診療所で仕事をするのが、自分は好きだ。年間3,000時間以上を過ごす診療所で、一人仕事をしながら思いを巡らす。

2013年は事務部門にとって厳しい1年だった。育児休業取得者、出産退職者、体調不良による退職者、家庭の事情による退職者が連續し、4名減で日々の外来診療をこなさなければならなかった。しかしながら、事務スタッフ全員の努力によりこの状況を乗り越え、新たに3名のスタッフを迎えることができた。また3診療所に事務責任者を任命し、権限の委譲と事務責任者会議での合議制を採用したことで、各診療所ごとのまとまりと連携を図る方向に舵を切ることができた。

今年はどんな1年になるのであろうか。ワーカホリックの自分に付き合ってくれる事務スタッフみんなに深く感謝し、また今年1年頑張っていきたい。

2013年を振り返って

看護師長 伊東 淳子

毎年思う事なのですが、2013年もあつという間に1年過ぎてしまいました。

2013年の大きな出来事というと、この眼科の開院当初から勤務し、勤続25年になるべテラン看護師が1名定年退職された事です。院長は「建物と同じ」という言い方をしていましたが、25年の長期にわたりこの眼科を支えてこられたという点ではそうなのかもしれません。（笑） 25年の間にはいろんな変化があったと思います。院内ミーティングのスピーチで松田本院の内装が15年前と現在では大きく変わっている事をお話しされた方がいました。診療所も3ヶ所に増え、検査機器や手術器機もどんどん新しいものを取り入れ、電子カルテも導入され、医師やスタッフも増えるなどの大きな変化がありました。この間、変わらず眼科を支えてこられたことは本当に素晴らしいと尊敬してやみません。また、師長として至らない事も多々あった事だと思いますが、そんな私をこれまで支えていただいた事に大変感謝しています。

この先まだまだ良い意味でいろんな変化があるでしょう。今後は今まで築きあげてこられた事を大事にしながら、いろいろな変化や可能性を楽しみに皆で協力して頑張りたいと思います。皆様、2014年もどうぞよろしくお願ひ致します。

僕の野望

手術室長 木村 智嘉

唐突ですが、僕の野望は安藤眼科が全国レベルの知名度の眼科になってもらう事です。

日本を統一するシュミレーションゲームだとするならば、まずは神奈川を手中に治めなければ… その為には神奈川県西部で確固たるポジションを築き上げ、神奈川東部にある有名な眼科とも肩を並べられるように努力していかなければ全国は見えてきません。

ゲームの様に簡単には行かない事だと思いますが来て頂いている患者様の為を思い職員が一生懸命に仕事をすることで少しずつ地域の人達からの信頼を得てみんなが安心して通うことの出来る眼科になっていくと僕は信じています。

「目の調子が悪くってさあ」

『それじゃ、安藤眼科に行ってきなよ』

「そうだね、あそこなら間違いないよね」

いつの日か（出来れば僕が働いているうちに）日本中の何処ででもこんな会話が聞けることを夢見ています。

2013 年の思い出

- 1月 18 日 関東信越厚生局神奈川事務所主催 南足柄クリニック集団指導
4月 26 日 防災訓練
5月 17 日 小田原クリニック 日立エレベーター災害時説明
7月 5 日 参天製薬㈱社外講習 LASIK 手術見学、講義 安藤展代
8月 23 日 北村さん送別会・納涼会
8月・9月 職員健康診断
9月 5 日 ハイデルベルグ OCT 小田原クリニック搬入設置
9月 24 日 第1回倫理委員会 安藤浩 安藤展代 江口亮 石川暢子
10月 17 日 参天製薬㈱社外講習 緑内障手術見学、講義 安藤浩
11月 8 日 LASIK臨床研究の開始
11月 12 日 小田原市消防訓練 酒匂川スポーツ広場
11月 29 日 インフルエンザ予防接種 小田原銀座クリニック岡村先生
12月 20 日 消防避難訓練
12月 21 日 忘年会

学会・勉強会

- 1月 11 日 『エピペン注射液』登録医説明(ドクターカンファにて) ファイザー(株) 本間様
1月 25 日～27日 日本眼科手術学会(福岡) 安藤浩 江口亮
2月 1 日 『エピペン注射液(ファイザー株)』・『イムノキャップラピッド(ファディア株)』説明
眼科医療従事者講習会①
木村舞 藤本景子 山川久美子 岡田真由子 十文字恵
2月 7 日 医療機器販売業管理者継続研修 安藤展代
2月 15 日 コソプト点眼液 勉強会 MSD 中筋様
2月 24 日 眼科医療従事者講習会②
木村舞 藤本景子 山川久美子 岡田真由子 十文字恵
3月 1 日 守秘義務勉強会 江口亮
3月 8 日 ムコスタ点眼液 勉強会 大塚製薬(株) 宮本様
3月 10 日 眼科医療従事者講習会③
木村舞 藤本景子 山川久美子 岡田真由子 十文字恵
3月 30 日 学術講演会『AMD 治療の意義に迫る』
ホテルニューオータニ東京 安藤展代 戸野塚敏恵
4月 4 日～7日 日本眼科学会総会(東京)
安藤浩 安藤展代 江口亮 高木智恵子 石川暢子
4月 16 日～26日 ASCRS 江口亮
緑内障治療受診率向上について ファイザー製薬 本間様
5月 10 日 アイファガン勉強会 千寿製薬(株) 吉柴様
5月 24 日 アスター説明会 富樫様
5月 31 日 平成25年度 第1回医療安全講習会 参天製薬(株) 眼科経営研究室 土屋様

6月 14 日	『Kanagawa Retina Forum』 安藤展代
6月 27 日～29日	日本白内障屈折矯正手術学会総会(浦安) 安藤浩 安藤展代 江口亮 高木智恵子 石川暢子
7月 12 日～7日	日本コンタクトレンズ学会(大阪) 高木智恵子 石川暢子
8月 1 日	CAOS の会 安藤浩 聖母眼科(香川県坂出市)
8月 3 日	CAOS の会 安藤浩 安里眼科(沖縄県那覇市)
8月 9 日	ムコスタ点眼液勉強会 大塚製薬㈱藤澤様
9月 5 日	医療機器販売管理者継続研修 安藤展代
9月 12 日～13日	出田眼科(熊本市)見学 安藤浩
9月 21 日～23日	日本緑内障学会(東京) 安藤浩 安藤展代 江口亮 高木智恵子 石川暢子
9月 28 日	神奈川県学術講演会(横浜) 安藤展代
10月 16 日	平成 25 年度社会保険診療懇話会 加藤晃仁
10月 25 日	ハイデルベルグ OCT 勉強会
10月 25 日	ルセンティス臨床研究説明会
10月 31 日	日本臨床眼科学会(横浜) 安藤浩 安藤展代 江口亮 高木智恵子 石川暢子 戸野塚敏恵 井上拓己
～11月 3 日	Oculentis ユーザーズミーティング 安藤展代 井上拓己
11月 3 日	日本網膜硝子体学会(名古屋) 安藤浩 江口亮
12月 6 日～8日	平成 25 年度 第 2 回医療安全講習会 参天製薬㈱ 眼科経営研究室 土屋様
11月 8 日	アズレガ懸濁性点眼液 勉強会 日本アルコン吉田様
11月 15 日	神奈川県学術講演(横浜) 安藤展代
11月 16 日	東海大学医学部付属病院 ICG 見学 井上拓己
11月 18 日	東海大学医学部付属病院 ICG 見学 木村智嘉・鹿島瞳
11月 22 日	災害対策講習 井上拓己
11月 29 日	ルセンティス勉強会 ノバルティス進様
12月 13 日	アレジオン点眼液勉強会 参天製薬㈱ 城平様
11月 30 日	駿河台日本大学病院 ICG 見学 安藤展代 井上拓己
12月 6 日	AmiVoice 取り扱い説明 (株)アドバンストメディア

学会発表

4月 22 日	ASCRS 『Factors influencing intraocular pressure elevation on the first postoperative day following small-incision cataract surgery』 江口亮 高木智恵子 石川暢子 安藤浩 安藤展代
6月 28 日	JSCRS 『Refractive Lenticule Extraction の可能性』 安藤浩 江口亮 石川暢子 安藤展代
6月 29 日	JSCRS 『LASIK と ReLEx の術後経過の比較』 石川暢子 江口亮 安藤浩 安藤展代

学会原著投稿

『小切開水晶体再建術後の眼圧上昇要因およびアプラクロニジンの効果の検討』

江口亮 高木智恵子 石川暢子 安藤浩 安藤展代

『Refractive Lenticule Extraction の可能性』 高木智恵子 江口亮 石川暢子 安藤浩 安藤展代

医師会・眼科医会

1月 12日	足柄上医師会 新年会 『千代田屋』にて 安藤浩
1月 17日	小田原医師会、足柄上医師会合同学術講演会 江口亮
3月 21日	足柄上医師会総会 休日救患診療所にて
3月 28日	平成24年度 第1回学術委員会 小田原市栢山「きらく」 安藤展代
4月 22日	松田中学校 眼科健診 安藤浩
5月 1日	井ノ口小学校 眼科健診 江口亮
5月 2日	大井小学校 眼科健診① 江口亮
5月 7日	足柄上医師会 学術委員会 安藤展代
5月 8日	吉田島総合高校 眼科健診 江口亮
5月 9日	大井小学校 眼科健診② 江口亮
5月 9日	湘光中学校 眼科健診① 石川暢子
5月 13日	寄幼・小・中学校 眼科健診 安藤浩
5月 15日	中村小学校 眼科健診 江口亮
5月 16日	湘光中学校 眼科健診② 石川暢子
5月 20日	松田幼稚園 眼科健診 安藤浩
5月 20日	相和幼稚園・相和小学校 眼科健診 石川暢子
5月 22日	中井中学校 眼科健診 江口亮
5月 27日	大井高校 眼科健診 安藤浩
5月 28日	東海大学病診連携世話人会 安藤浩
5月 29日	山北高校 眼科健診 江口亮
5月 30日	上大井小学校 眼科健診① 石川暢子
6月 6日	大井幼稚園 眼科健診 石川暢子
6月 10日	上大井小学校 眼科健診② 石川暢子
6月 17日	松田小学校 眼科健診 安藤浩
6月 20日	大井第2幼稚園 眼科健診 石川暢子
7月 11日	足柄上病院 懇談会 安藤浩
9月 3日	東海大学病診連携世話人会 安藤浩
9月 20日	足柄上医師会『災害救急対策委員会』開成町『安源樓』 安藤浩
9月 30日	福利厚生委員会 安藤展代
10月 5日	神奈川県眼科医会健保懇談会 安藤浩 加藤晃仁
11月 7日	大井町就学時健康診断 江口亮
11月 12日	松田町就学時健康診断 安藤浩
12月 4日	報徳小学校就学時健康診断 江口亮
12月 23日	小田原市休日夜間急患診療所当番 安藤浩

改装・修理

2月9日	南足柄クリニック 自動ドア修理
2月9日～24日	小田原クリニック 駐車場外灯工事
3月9日	松田 駐車場フェンス工事
3月22日	松田第2駐車場工事
4月5日	院内ネットワーク(d-linkstation) NAS 交換
4月6日,20日	松田 前面道路側溝工事
5月10日,17日	小田原クリニック 緊急災害用ユニット設置工事
5月20日～27日	小田原クリニック 南足柄クリニック NAVIS 電源ユニット交換工事
5月20日	NAVIS バージョンアップ
5月30日	南足柄クリニック 電気量検針 設備
7月20日	松田駐車場 フェンス取り付け工事
7月27日	小田原クリニック 1F、2Fトイレ 棚設置工事
8月11日～11月24日	小田原クリニック 耐震固定工事
9月5日	小田原クリニック ハイデルベルグ OCT 設置
10月5日	小田原クリニック診察室A LAN 追加工事
11月18日	小田原クリニック3階 防火扉調整
12月6日	松田・小田原クリニック・南足柄クリニック RAID プログラムバージョンアップ
12月26日	手術室 無停電装置交換

2013年に行われた手術(眼数)

保険診療分合計	2308	硝子体内注射	242
内眼手術	2000		
水晶体再建術	1795	マクジエ	23
緑内障手術	128	ルセンティス	158
硝子体手術	77	アバスチン	18
外眼手術	308	アイリーア	43
翼状片手術	65		
眼瞼手術	94		
霰粒腫手術	21		
涙道	0		
PTK	9		
LRI	2		
ケナコルト	71		
その他外眼	46		
自由診療分合計	246		
ICL	0		
フェイキック IOL	0		
LASIK	80		
PRK	0		
エンハンス	14		
自由診療による水晶体再建術 (水晶体再建術内数)	152		
総合計	2554		

新設器械

6月20日	ハイデルベルグ OCT 松田搬入
12月4日	AmiVoice(音声入力ソフト)セットアップ 小田原クリニック2台・松田2台
12月9日	ハーグストレイトスリットランプ搬入 小田原クリニック1台・松田1台

ひとみすっきり号(無料送迎車)の動き

利用期間	延べ患者様数	月平均
平成25年1月～12月(予定含む)	2,688人	224人

主な送迎場所

- ・安藤眼科医院～安藤眼科医院小田原クリニック
 - ・足柄上郡松田町寄地区
 - ・足柄上郡山北町中川地区・清水地区
- ほか小田原市・松田町・山北町・大井町・開成町・中井町全域

2013年皆勤賞 無遅刻・無欠勤・無早退の方々です。拍手！

金田 浩子 甲斐 智美 鈴木 智子 野崎 友希 高橋 京子 木村 智嘉 宮下 千加子
山川 久美子 香川奈美子 倉林あゆみ 齋藤 明奈 中村久美子 久野 妙子 町田 裕子

入職者 がんばって下さい。

原 祥子さん(事務)	平成25年1月7日入職
鹿島 瞳さん(看護師)	平成25年4月8日入職
新村 瑞希さん(臨床検査技師)	平成25年4月8日入職
田辺 勝美さん(ドライバー)	平成25年4月8日入職
後藤 芽久未さん(事務)	平成25年8月1日入職
廣井 みさとさん(事務)	平成25年8月1日入職
関野 芙美さん(事務)	平成25年10月1日入職
林 由香里さん(臨床検査技師)	平成25年11月5日入職

退職者 ごくろう様でした。

平塚 勝巳さん	平成 25 年 3 月 31 日退職
小泉 琴代さん	平成 25 年 4 月 30 日退職
原 弘恵さん	平成 25 年 5 月 31 日退職
安達 幸子さん	平成 25 年 7 月 31 日退職
北村 幸子さん	平成 25 年 8 月 31 日退職
小林 香澄さん	平成 25 年 12 月 31 日退職
高木 智恵子先生	平成 25 年 12 月 31 日退職

結婚おめでとう。

木村 舞さん	平成 25 年 8 月 1 日入籍
近藤 里奈さん	平成 25 年 7 月 6 日入籍

スタッフ

常勤医:	安藤 浩 安藤展代 江口 亮 高木智恵子 石川暢子 戸野塚敏恵
看護師:	井上拓己 金田浩子 甲斐智美 伊東淳子 榎本和美 松山さやか 藤田孝枝 香川奈美子 久野妙子 鹿島 瞳
臨床検査技師:	木村智嘉 木村 舞 須貝 剛 十文字 恵 小林香澄 野村桃子 新村瑞希
視能訓練士:	杉山和香奈 倉林あゆみ
検查看護補助:	鈴木智子 高橋京子 藤本景子 山川久美子 岡田真由子 坪井明日香
事務:	加藤晃仁 小寺弥生 加藤明子 野地真弓 野崎友希 飯山百合子 近藤里奈 波多野麻里亜 山口いづみ 宮下千加子 関 紘理子 鈴木雅美 矢口弥生 山村明子 関 麻子 斎藤明奈 中村久美子 菊原美和子 萩野孔美 町田裕子 原 祥子 後藤芽久未 廣井みさと
ドライバー:	丹野文義 田辺勝美
研修中:	関野美美 林 由香里